立教大学ジェンダーフォーラム主催　2021 年度映画上映会

「映画『ひとまずさよなら“ユア ビゲスト ファン”（原題：*Resolving ‘Your Biggest Fan’*）』上映会＋トーク」

日　時：　2021 年 10 月 2 日（土）　13：30～15：00
講　師：　ステフ・アラナス氏（アーティスト）、秋田　祥氏（映画キュレーター）
会　場：　ZOOM ウェビナー

2021 年度の映画上映会は、フィリピン在住のトランスジェンダー女性のアーティストであるステフ・アラナス氏と、映画キュレーターの秋田祥氏をお招きし、アラナス氏の卒業制作となった映画『ひとまずさよなら“ユア ビゲスト ファン”』（2020）の上映会を行いました。

当初、アラナス氏は卒業制作としてフィクション映画を撮ることを予定していました。ところが、新型コロナウィルスの影響で、脚本や衣装などの準備がほぼ完了していたにもかかわらず、撮影が困難となります。そこで手元の映像素材とスタッフたちとの電話の音声を再構成することによって、制作できなかった映画を別の映画として作り直す過程そのものをドキュメンタリー映画に仕上げたのが本作です。従って本作では、映画制作の様子だけでなく、フィリピンにおけるコロナ下での学生生活の状況やトランスジェンダーとして生きるアラナス氏や友人たちの関係、そして市民運動への取り締まりを強めるドゥテルテ政権への不安までもが記録されています。「ユア ビゲスト ファン」とは、元々のフィクション映画のタイトルであり、ポップシンガーの歌姫に憧れるトランスジェンダー女性を主人公にしたこの映画は、ミュージシャンでもあるアラナス氏自身を反映したような作品になる予定でした。それに対し、本作ではアラナス氏は写真やミュージックビデオなどの映像と電話の声でしか現れず、入り乱れる様々な人物の電話の声と画面に多重露光されるカラフルな映像素材に対し、時折映し出される（恐らくアラナス氏の自室であろう）無人の部屋の映像が、繊細な印象を強くしていました。

こうしたフィリピンの現在やアラナス氏自身の境遇を多層的に取り上げた本作を受け、上映後には本学のジェンダーサークル「10x10」の学生メンバー5 名とアラナス氏、秋田氏とのトークセッションを実施しました。トークでは、アラナス氏と同様にコロナによって卒業論文のために計画していた参与観察を諦め、研究方法を変える必要に迫られた学生や、交換留学を断念せざるを得なかった学生らの体験が語られました。そのやり取りのなかで、作品から受け取ったものとして学生が述べた「不可能なことに専心するのをやめて、今この状況でできることをする」というメッセージは力強く、多くの参加者を勇気づけるものでした。他方で、フィリピンではいくらか許容されている面もあるとはいえ、トランスジェンダー女性が困難な立場に置かれていることに変わりなく、自分のように家族や友人に恵まれているケースは稀なことと語るアラナス氏の言葉は、日本でも重く受け止められるべきもののように思えました。

以上のように本上映会は、世界中の人々が直面している様々な課題のなかで、いかにコミュニティを作り、前に進むのかを対話によって導き出すような企画となりました。アラナス氏は学生のみならず視聴者によるチャットでの質問にも真摯に答えてくださり、オンラインであっても共に映画を見て、語り合うことの意義を再確認できるイベントになったと感じます。アラナス氏や学生の方々に加え、配信や企画からご協力くださった秋田氏、そして円滑なイベント進行にご尽力くださった通訳の佐藤まな氏には、心よりお礼申し上げます。

（立教大学ジェンダーフォーラム事務局　片岡佑介）